徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報

第 16 号（令和 7 年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Torii Ryuzo Memorial Museum
No.16（for the fiscal year of 2025）

目　　次

Ⅰ　展覧事業……2
1．常設展
2．企画展
3．その他の展示
4．展示関係出版物

Ⅱ　調査研究事業……6
1．令和７年度の調査概要
2．研究成果の公表

Ⅲ　資料収集保存事業……8
1．館蔵資料数
2．資料貸出
3．写真・映像等の提供
4．資料閲覧
5．資料整理ボランティア
6．資料の保存

Ⅳ　普及教育事業……10
1．普及行事
2．学校教育の支援
3．講師の派遣
4．テレビ等への出演
5．インターネットによる情報発信
6．鳥居龍藏記念
　徳島歴史文化フォーラム
7．鳥居龍藏記念
　全国高校生歴史文化フォーラム
8．普及教育関係出版物

Ⅴ　台湾との交流……16
1．台湾への訪問

Ⅵ　管理運営……18
1．組織・職員
2．防災及び危機管理
3．鳥居龍藏記念博物館協議会
4．博物館ネットワーク
5．各種研修会への参加
6．視察等来訪者

Ⅶ　観覧者統計……21

Ⅷ　施設の概要……23
1．沿革
2．施設の概要

Ⅸ　例規……24

Ⅰ　展覧事業

鳥居龍藏記念博物館の展示は、常設展と企画展、その他の展示からなる。

常設展は、鳥居龍藏の生涯と研究業績を分かりやすく学ぶことができるよう3つの展示室で構成している。

東アジア各地における鳥居の調査ルートをLEDランプで示す床地図、遼王朝の陵墓の復元模型とともに、収集した資料や写真を通して龍藏の足跡が学べる展示内容としている。土器パズルや民族衣装などの体験学習キット、映像資料が検索・閲覧できるパソコンや、随時展示替えする「トピックコーナー」も設置している。

また、常設展以外に、期間を限定して、特定のテーマに即して開催する企画展等がある。7年度は、企画展を1回、その他の展示を2回開催した。

1．常設展

⑴　展示構成

■第1展示室　鳥居龍藏の見たアジア

鳥居龍藏のアジア調査の成果について、地域別に概観できるよう構成している。写真や民族・考古資料を幅広く紹介している。

1．台湾・中国西南部
2．中国東北部・内モンゴル
3．遼
4．朝鮮半島
5．千島列島・サハリン・シベリア
6．日本列島

■第2展示室　鳥居龍藏の生涯

人類学を志した徳島での少年時代から、やがて東京に移ってからの研究、家族とともに携わった調査など、生涯にわたる足跡や多彩な交流の様子を紹介している。

1．人類学への志
2．家族とともに
3．南アメリカ

■第3展示室　鳥居龍藏から学ぶもの

検索機能を備えたパソコンを設置したり書籍を配架したりして、鳥居の学問的な成果が学べるとともに、子どもも楽しめる体験学習キットを用意している。

1．情報コーナー（パソコンを使った鳥居龍藏撮影の写真の検索・閲覧や番組型コンテンツの提供）
2．体験展示（土器パズル、カメラ体験、民族衣装の試着（帽子のみ））
3．図書コーナー（鳥居龍藏の著作などの閲覧）
4．ジグソーパズル

⑵　トピックコーナーの展示替え

平成24年度から、第2展示室内の一部をトピックコーナーとし、整理の進んだ資料を中心に、随時展示替えを行っている。7年度の実績は次のとおりである。

●鳥居龍藏と中国西南部の少数民族―苗族を例に―

4月1日（火）～7月27日（日）
展示資料　6点（館蔵資料6点）

鳥居龍藏が中国西南部で行った調査（1907年～1903年）の概要と、同調査が計画されるきっかけとなった学説である「苗族」先住民説について紹介した。

●鳥居龍藏の自筆原稿―新着資料の紹介―

7月29日（火）～11月30日（日）
展示資料　15点（館蔵資料　15点）

当館に新たに寄託された鳥居龍藏直筆の原稿やアンケート回答はがき、それらと関連する資料を紹介した。

●鳥居きみ子の紀行文

12月2日（火）～3月22日（日）
展示資料　4点（館蔵資料　4点）

鳥居龍藏の妻である鳥居きみ子（1881～1959）について、その活動の概要と、代表的な著作を紹介した。

●鳥居龍藏、埼玉県内を行く

3月24日（火）～〔令和8年度〕8月2日（日）
展示資料　3点（館蔵資料　3点）

鳥居龍藏が1900年に埼玉県で調査した史跡や、鳥居に同行した貴族院議員の長岡護美（1842～1906）が調査地で詠んだ漢詩を紹介した。

2．企画展

⑴　開館15周年記念企画展「中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―」

鳥居龍蔵は1902年から翌年にかけて、中国西南部を旅し、現地に住む少数民族を調査した。この調査は、鳥居が文献調査を重視するきっかけになるなど、彼の生涯において大きな節目になったとされる。鳥居が中国西南部を訪れたのは一度だけであったが、彼の同地域に対する関心は晩年まで続いていたことが、近年明らかになってきた。

この展示では、鳥居が中国西南部に旅立つこととなった背景、彼が現地で出会った少数民族、調査終了後の鳥居と中国西南部とのつながりについて紹介した。

●主　催　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
　　徳島県立博物館
●協　力　国立民族学博物館
●会　場　徳島県立博物館企画展示室
●会　期　１月31日（土）～３月８日（日）
　　（開館日数32日）

●展示構成

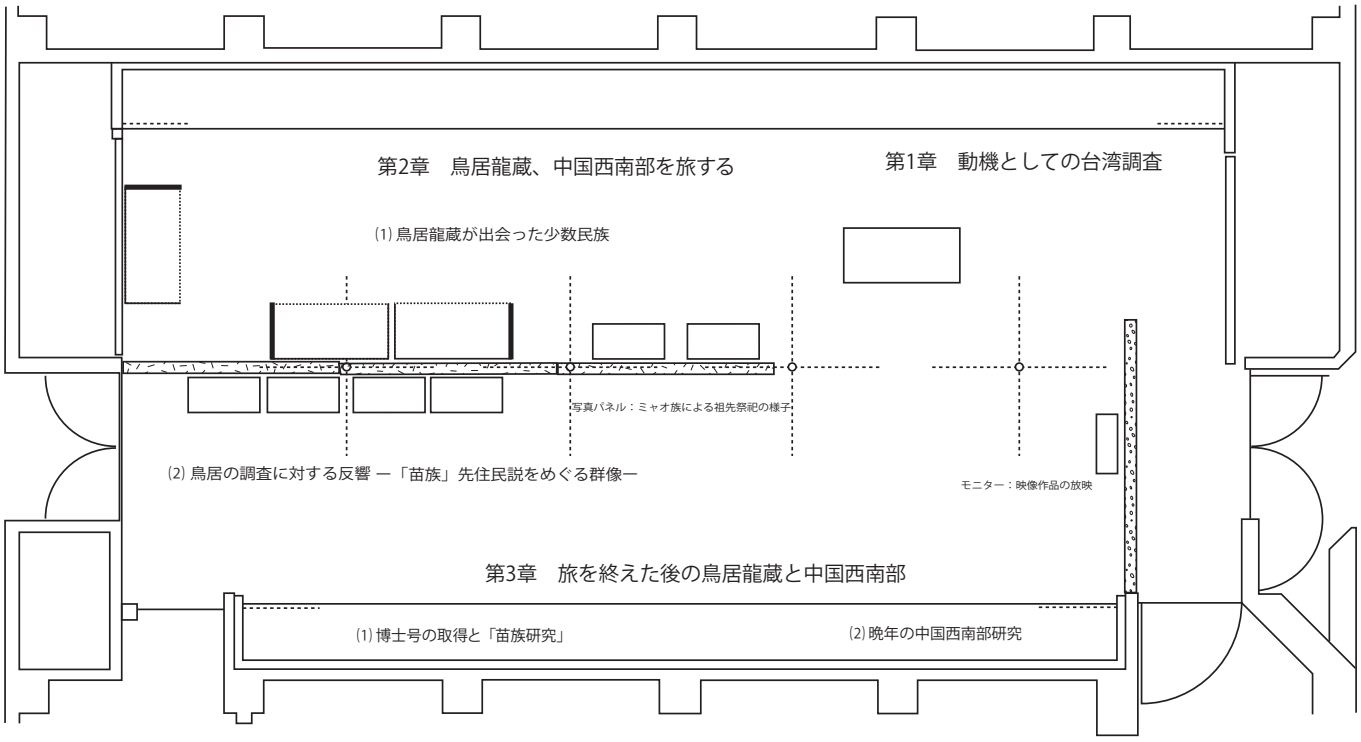
第１章　動機としての台湾調査
第２章　鳥居龍蔵、中国西南部を旅する
　⑴鳥居が出会った少数民族―ミャオ族とイ族を例に―
　⑵鳥居の調査に対する反響―「苗族」先住民説をめぐる群像―
第３章　旅を終えた後の鳥居龍蔵と中国西南部
　⑴博士号の取得と「苗族研究」
　⑵晩年の中国西南部研究

●展示資料数　188点（館蔵資料140点）
●観覧料
一般200円（65歳以上100円）
高校・大学生100円、小・中学生50円
●観覧者数　1,607人
●関連行事
①記念講演会（第１回）
日　時　２月１日（日）13：30～15：00
会　場　文化の森 イベントホール
講師・演題
　鈴木正崇氏（慶応義塾大学名誉教授）
　「ミャオ族の文化を探る」
参加者　71人
②記念講演会（第２回）
日　時　２月22日（日）　13：30～15：00
会　場　文化の森 イベントホール
講師・演題
　吉開将人氏（北海道大学大学院教授）
　「鳥居龍蔵と中国西南部」
参加者　57人



企画展のチラシ（左：表面 / 右：裏面）

4　展覧事業



企画展の展示配置



展示の様子



記念講演会（第１回）の様子



展示解説の様子



記念講演会（第２回）の様子

③展示解説
第１回　２月７日（土）
13：30～14：30　参加者　21人
第２回　２月28日（土）
13：30～14：30　参加者　11人
第３回　３月８日（日）
13：30～14：30　参加者　26人

３．その他の展示

⑴　２階中央ロビーでの展示

常設展示室前の２階中央ロビーで、小規模な展示を行った。

●鳥居龍蔵の台湾関係資料を調査する―徳島での協同学術調査―

期　　間　４月１日（火）～２月28日（土）
展示資料　１点（館蔵資料１点）

令和６年12月に、当館所蔵の鳥居龍蔵による台湾調査と関係する資料を、国立台湾史前文化博物館と共同で調査した。展示では、調査時の様子を写真等で紹介した。

●台湾北部・東部で調査を行いました

期　　間　３月１日（日）～〔令和８年度〕
展示資料　写真パネル15点

１月15日から20日にかけて、当館職員が台湾の宜蘭県や花蓮県で調査した際の様子を、写真パネルで紹介した。

４．展示関係出版物

●企画展図録「中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―」

2026年１月31日発行、Ａ４判47ページ、500部



企画展図録の表紙

Ⅱ　調査研究事業

鳥居龍藏記念博物館では、設置の趣旨にもとづき、鳥居龍藏とその周辺に関する調査研究を進めることで、最新の情報を盛り込んだ展示や内容豊かな普及活動による鳥居龍藏の顕彰を図るための基盤整備を進めている。とくに、館蔵資料に即した調査研究に重点を置いて取り組んでいる。

令和７年度は、専任の学芸スタッフ４名を中心に、兼務職員とともにこの業務に携わった。

1. 令和７年度の調査概要

⑴　館外研究者との共同調査

館外の研究者とともに次のとおり資料調査を行い、相互に研究の進展を図った。

●JFE21世紀財団アジア歴史研究助成事業「鳥居龍蔵の契丹研究について――未公刊原稿の分析」（代表：中生勝美氏［桜美林大学］）の資料調査

12月５日（金）から６日（土）にかけて、中生勝美氏（桜美林大学）と古松崇志氏（京都大学）とともに、当館で研究会と資料調査を行った。

１月31日（土）に、独立行政法人国立美術館アーカイブが所蔵する映画「地平線」（鳥居龍蔵が登場人物のモデルとなっている）の特別映写観覧を行った。当館からは、下田順一、長谷川賢二が参加した。

●科学研究費助成事業「民族誌アーカイブズとフィールド調査の接合による植民地初期台湾の先住民社会の探究」（代表：野林厚志氏［国立民族学博物館］）の関連調査

８月19日（火）から21日（木）にかけて、東京大学総合研究博物館が所蔵する台湾関係の考古資料を調査した。調査には、野林厚志氏、劉俊昱氏（以上、国立民族学博物館）、宮岡真央子氏（福岡大学）、角南聡一郎氏（神奈川大学）、葉長庚氏（耕古文化有限公司）、王仲群氏、曾于宣氏（以上、国立台湾史前文化博物館）が参加した。当館からは植地岳彦、松永友和、下田順一、小林篤正が参加した。

１月15日（木）から20日（火）にかけて、台湾を訪問し、鳥居龍蔵がかつて調査した宜蘭県や日本統治時代（1895～1945）に多くの徳島県民が移住した花蓮県を調査した。

調査には、野林厚志氏、宮岡真央子氏が参加した。当館からは磯本宏紀、長谷川賢二、大塩啓一郎、矢野大輔が参加した。なお、詳しくはP.17を参照。

３月16日（月）に、天理大学附属天理参考館が所蔵する台湾関係資料を調査した。調査には、宮岡真央子氏、角南聡一郎氏が参加した。当館からは、植地岳彦、松永友和、下田順一、長谷川賢二が参加した。

⑵　フィールドノート講読会

当館は、鳥居龍蔵が台湾調査の際に作成したフィールドノート群を所蔵している。それらの資料を調査することは、鳥居が行った台湾調査の具体相を解明する上で、不可欠な作業である。４年度から開始したフィールドノート講読会を、７年度も引続き実施した。講読会の開催日程と、各回の報告担当者は、以下のとおりである。

４月11日（金）　松永友和
５月16日（金）　宮岡真央子氏
６月13日（金）　長谷川賢二
７月25日（金）　小林篤正
９月26日（金）　坂東　泰
10月17日（金）　松永友和
11月21日（金）　野林厚志氏
12月19日（金）　宮岡真央子氏
１月23日（金）　宮岡真央子氏
２月17日（火）　矢野大輔
３月25日（水）　長谷川賢二

2. 研究成果の公表

⑴　鳥居龍蔵記念博物館研究報告第６号の発行

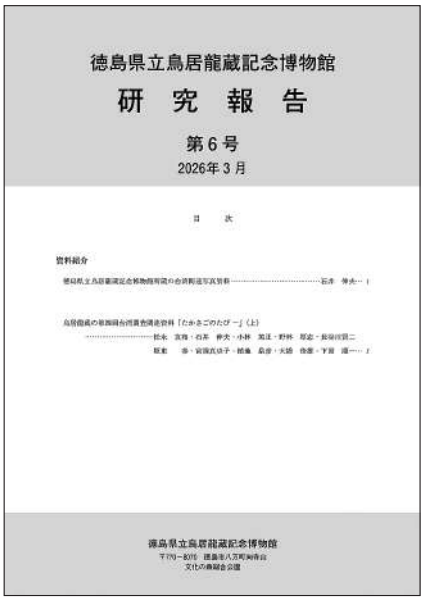
2026年３月26日発行、Ａ４判、91ページ、300部

（*印：館外研究者）

資料紹介

石井伸夫*：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館所蔵の台湾関連写真資料．p.1-37.

松永友和・石井伸夫*・小林篤正・野林厚志*・長谷川賢二・坂東　泰・宮岡真央子*・植地岳彦・大橋俊雄*・下田順一：鳥居龍蔵の第四回台湾調査関連資料「たかさごのたび一」（上）．p.1-54.



研究報告　表紙

⑵　公表論文・報告・記事等一覧

〈一般著述〉

下田順一（2025.９）（今季の逸品）鳥居龍蔵の調査に同行した画家・大野延太郎（雲外）のスケッチ. NEWSLETTER⑻：1.

坂東　泰（2025.９）鳥居龍蔵が調査した中国貴州省の現在―企画展「中国西南部の旅人たち」に向けて―. NEWSLETTER⑻：2-3.

植地岳彦（2025.９）1922年の鳥居龍蔵による徳島調査と弥生時代研究. NEWSLETTER⑻：4-5.

磯本宏紀（2025.９）（資料整理の最前線）フィールドノート「那賀のあら妙」に描かれた七夕飾り. NEWSLETTER⑻：6.

小林篤正（2025.９）（資料整理の最前線）鳥居きみ子と龍蔵のモンゴル行きについて―夫婦の共有日記をもとに―. NEWSLETTER⑻：7.

坂東　泰（2025.12）（今季の逸品）中国西南部における支出記録. NEWSLETTER⑼：1.

長谷川賢二（2025.12）鳥居龍蔵記念博物館の成り立ちについて―開館15周年によせて―. NEWSLETTER⑼：2-3.

坂東　泰（2025.12）徳島県立鳥居龍蔵記念博物館開館15周年記念企画展　中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―. NEWSLETTER⑼：4-5.

大塩啓一郎（2025.12）（ゆかりの地今昔）鳥居龍蔵が見た勝瑞城跡. NEWSLETTER⑼：6.

矢野大輔（2025.12）（資料整理の最前線）台湾フィールドノートの挿絵. NEWSLETTER⑼：7.

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館編（2025.11）郷土の偉人シリーズ第５回鳥居龍蔵と台湾. 台湾協会報（837）：6-7.

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館編（2025.12）鳥居龍蔵―探究・冒険・挑戦の生涯―. 大塚薬報（811）：4-17.

⑵　学会・研究会等での報告

小林篤正（2025.８）徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の概要及び鳥居龍蔵の台湾調査について. 日台原住民研究フォーラム（台北）.

小林篤正（2026.３）徳島県立鳥居龍蔵記念博物館と台湾との交流について. 四国ミュージアム研究会（香川）.

Ⅲ　資料収集保存事業

鳥居龍藏記念博物館では、鳴門市にあった旧館（鳥居記念博物館）から引き継いだ資料の詳細な調査・整理やデータ登録、保存を資料収集保存事業の中心としている。令和７年度は、会計年度任用職員２名の援助を得て作業を進めた。

また、鳥居龍藏に関連する資料の新規購入にも努めた。8年度以降も引き続き、新規収集を心がけていきたい。

1. 館蔵資料数

考古資料・民族資料・書籍類・写真・拓本・自筆原稿・書簡等の総数は約70,000点である。調査・整理を継続しており、実数は未だつかめていないが、未開封だった資料の精査が進んできたため、総数は増加傾向にある。

また、７年度は、今後の企画展等の開催計画や情報収集、展示資料の充実を考慮して、一次資料や参考図書を計117点購入した。

2. 資料貸出

①フィールドノートほか　６点
福島県立博物館

3. 写真・映像等の提供

①写真（ゲルの前における鳥居龍藏一家）　１点
株式会社くもん出版(出版物掲載)
②鳥居龍藏の肖像写真ほか　17点
福島県立博物館(出版物掲載)
③鳥居龍藏日記ほか　２点
愛知大学　田村和彦氏(出版物掲載)
④フィールドノートほか　24点
石井伸夫氏(出版物掲載)
⑤写真（析木城のドルメン）ほか　２点
佐々木明美氏(出版物掲載)
⑥フィールドノートほか　２点
東京大学総合研究博物館　海部陽介氏(出版物掲載)
⑦鳥居龍藏記念博物館展示室パノラマ写真　１点
TRC-ADEAC 株式会社（出版物掲載）
⑧写真（遼慶州城白塔内発見の破片）　１点
井上桂子氏（出版物掲載）
⑨鳥居龍藏日記ほか　２点
愛知大学　田村和彦氏（出版物掲載）
⑩鳥居龍藏の肖像写真　１点
株式会社ディー・プランニング沖縄（出版物掲載）

4. 資料閲覧

①写真（朝鮮家屋の炊事場の詳細）ほか　21点
東京大学大学院　キム・ジへ氏
②フィールドノートほか　11点
福島県立博物館　高橋　満氏
③写真(遺構を調査する鳥居龍藏と緑子)ほか　145点
東京大学大学院　キム・ジへ氏
④大野延太郎（雲外）筆掛け軸ほか　２点
大阪大学大学院　藏田愛子氏
⑤香取秀真制作の鍍金獅子ほか　６点
東京都教育庁　平田　健氏
⑥鳥居龍藏長野県調査写真ほか　233点
弘前大学　上條信彦氏
⑦「貴州省の苗族　第壱冊」ほか　４点
京都女子大学　佐藤若菜氏

5. 資料整理ボランティア

平成25年度から、歴史文化倶楽部（シルバー大学校及び同大学院の歴史文化講座修了者の会）の会員等からなるボランティアの協力を得て、館蔵資料の整理作業を進めている。

７年度も月１回程度のペースで活動を行い、必要に応じて有識者の助言を得ながらデータの蓄積を図った。活動実施日は次のとおりである。

第１回　５月14日（水）
第２回　５月30日（金）
第３回　６月24日（火）
第４回　７月９日（水）
第５回　９月３日（水）
第６回　９月19日（金）
第７回　10月８日（水）

第８回　10月22日（水）
第９回　11月５日（水）
第10回　11月19日（水）
第11回　12月17日（水）
第12回　２月４日（水）
第13回　２月18日（水）
第14回　３月18日（水）



ボランティア活動の様子

6. 資料の保存

⑴　資料の燻蒸

害虫やカビは、資料を劣化させる原因となる。そこで、企画展で展示した資料や資料整理を終えた資料などは、収蔵庫への搬入に先だって、原則としてすべて燻蒸を行う必要がある。なお､当該資料の燻蒸作業は､文化財専門の燻蒸業者に委託している。令和７年３月まで燻蒸に用いてきた薬剤の販売が中止となったため、代替ガスや炭酸ガスを用いた燻蒸など、当館所蔵資料に有効な有害虫菌対策を検討し、県立博物館と共同で燻蒸業務を行った。

⑵　収蔵庫における環境管理

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなどが侵入する恐れがあることから、定期的に清掃を実施し、虫菌害の防除に努めている。また、収蔵庫の環境管理を充実させるために、ケミカルフィルターを設置した。

⑶　常設展示室における環境管理

常設展示室は、収蔵庫のような密閉可能な空間ではないため、害虫の侵入を防ぐことができず、また、展示室全体の燻蒸が不可能である。そこで、害虫への対策として、忌避剤の設置及び粘着トラップによる文化財害虫の調査を行っており、７年度も実施した。

Ⅳ　普及教育事業

鳥居龍藏記念博物館における普及教育事業は、鳥居龍藏の顕彰を推進するための県民に対する情報発信の意味をもち、重要である。また、調査研究や資料収集保存の成果を示すという意味でも、展示とともに意義深い事業といえる。

1. 普及行事

令和７年度は、鳥居龍藏セミナーや企画展関連行事などを行い、普及啓発に努めた。

■鳥居龍藏セミナー

この事業は、鳥居龍藏の学説や調査活動などをそれぞれのテーマに沿って、専門講座を実施することにより、鳥居の生涯や業績を多くの方々に理解してもらい、その顕彰に寄与するものである。

・５月18日（日）
第１回「鳥居龍藏の中国西南部調査と清末知識人」
坂東　泰　18人

・６月29日（日）
第２回「鳥居龍藏と三好市三野町で採集された大量の石鏃」　植地岳彦　15人

・７月20日（日）
第３回「鳥居龍藏の趣味と人となりについて」
小林篤正　14人

・９月21日（日）
第４回「鳥居龍藏の中国仏塔調査」
下田順一　18人

・10月19日（日）
第５回「鳥居龍藏の北京移住とその周辺」
長谷川賢二　15人



鳥居龍藏セミナー（第５回）の様子

■企画展「中国西南部の旅人―鳥居龍藏と高原の少数民族―」関連行事

・２月１日（日）記念講演会①
鈴木正崇氏（慶応義塾大学名誉教授）
「ミャオ族の文化を探る」　71人

・２月22日（日）記念講演会②
吉開将人氏（北海道大学大学院教授）
「鳥居龍藏と中国西南部」　57人

・展示解説
第１回　２月７日（土）　21人
第２回　２月28日（土）　11人
第３回　３月８日（日）　26人

■夏休み自由研究スペシャル

８月３日（日）
みんなで発見‼ 鳥居龍藏を知ろう‼　６人

■鳥居龍藏ゆかりの地を歩こう

３月22日（日）
金毘羅神社、光仙寺、寺町、新町橋（以上、徳島市）
参加者　３人

■文化の森共同イベント

・５月５日（月・祝）
「文化の森　こどもの日フェスティバル」（たのしく知ろう鳥居龍藏・文化の森ウォークラリー）　731人

・８月11日（月・祝）
「文化の森　サマーフェスティバル」（すごろくとパズルで楽しもう・文化の森ウォークラリー）1,421人

・９月19日（金）
「文化の森　よるあそび」（モンゴルナイト）　162人

・11月３日（月・祝）
「文化の森　秋祭り」（世界の民族衣装を着てみよう・文化の森ウォークラリー）　1,261人

・11月29日（土）
「飛び出せ！文化の森ユニバーサルミュージアム推進事業　徳島県立海部病院」（常設展示室内を海部病院にオンライン中継）　30人

・12月19日（金）
「飛び出せ！文化の森ユニバーサルミュージアム推進事業　徳島県立ひのみね支援学校」（世界のぼうしをかぶってみよう）　98人

・１月12日（月・祝）
「飛び出せ！文化の森ユニバーサルミュージアム推

進事業　ゆめタウン徳島」（世界の民族衣装を着てみよう）　161人
・２月11日（水・祝）
「文化の森　ウィンターフェスティバル」（世界のぼうしをかぶってみよう・文化の森ウォークラリー）　880人

2. 学校教育の支援

徳島県立博物館が主催した「教員のための博物館の日 in 徳島」（７月23日（水））に、協力館として参画した。

3. 講師の派遣

・９月17日（水）　下田順一
「人類学者　鳥居龍蔵」（徳島県シルバー大学校大学院講義、徳島県立総合福祉センター）
・９月18日（木）　長谷川賢二
「台湾との交流について」（令和７年度四国地区博物館協議会研修会、徳島市立徳島城博物館）
・11月４日（火）　植地岳彦
「鳥居龍蔵とその時代」（徳島県シルバー大学校講義、小松島福祉センター）
・11月19日（水）　磯本宏紀
「鳥居龍蔵とその時代―鳥居龍蔵の民俗研究と「那賀のあら妙」をめぐって―」（徳島県シルバー大学校講義、阿南市ひまわり会館）
・２月６日（金）　長谷川賢二
「鳥居龍蔵とその時代―古代日本民族史論をめぐって―」（徳島県シルバー大学校講義、徳島県教育会館）

4. テレビ等への出演

事業のＰＲのためのテレビ等への出演を、月日・出演者・内容の順に記す。
・１月９日（金）　坂東　泰　エフエムびざん「Sunny Side of The Street」（開館15周年記念企画展「中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―」について）
・１月31日（土）　坂東　泰　四国放送「徳島新聞ニュース」（開館15周年記念企画展「中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―」について）
・２月９日（月）　坂東　泰　ケーブルテレビ徳島「ステップ」（開館15周年記念企画展「中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―」について）
・２月25日（水）　坂東　泰　ケーブルテレビテレビあなん「トレンドカフェ」（開館15周年記念企画展「中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―」について）

5. インターネットによる情報発信

⑴　ホームページの公開

鳥居龍蔵記念博物館のホームページを開設し、事業の紹介や学習教材の提供などを行っている。主な内容は次のとおりである。
・利用案内（開館日、観覧料、交通アクセス等）
・学校教育での利用（観覧料の免除と手続き、出前授業）の案内
・常設展の紹介
・「鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム」及び「鳥居龍蔵記念　全国高校生歴史文化フォーラム」の紹介
・台湾との交流
・鳥居龍蔵についての紹介
・研究報告や一部の図録類のダウンロードコーナー
・ご意見コーナー

⑵　デジタルアーカイブ

当館を含む文化の森総合公園文化施設では、元年度から、「徳島県文化の森デジタルアーカイブ構築事業」を実施している。７年度、当館では11点の資料を撮影した。これらのデジタルデータは、８年度に「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館デジタルアーカイブ」において追加公開の予定である。

⑶　館蔵資料データベースの公開

２年度から開始した、館蔵資料データベースの公開を継続するとともに、データ整備作業を推進した。

6. 鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム

鳥居龍蔵は、徳島が生んだ世界的な学者である。彼は、人類学、民族学、考古学など多様な手法を駆使し、当時世界最先端の業績をあげたが、その礎は、地元の歴史や文化についてフィールドワークをもとに研究し、その成果を世に問いかけた少年時代の活動にあったといっても過言ではない。このような鳥居龍蔵の取り組みを記念し、徳島の中学生・高校生による歴史文化に関する自主的な研究活動を後押しすることにより、人材の育成を図ることを目的に、平成28年度から実施しており、令和７年度で10回目となった。

なお、この事業は26・27年度に行った博学連携推進

モデル事業（年報 5・6 号参照）の成果を踏まえて行うこととしたものである。

●主催

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
徳島県立博物館

●後援

徳島県博物館協議会

●募集内容及び条件

地域の歴史・文化について自主研究活動を行ってもらい、研究成果をまとめたレポートを募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること（必ずしも徳島県内に限定しない）、②鳥居龍蔵に関連することのいずれかとした。

また、研究及びレポート作成の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関連する博物館や資料館を利用することとした。

●募集期間

7月16日（水）～11月14日（金）
（レポートの提出をもって応募とする）

●対象（応募資格）

県内在住の中学校・高等学校及び特別支援学校（中学部、高等部）の生徒（中等教育学校の生徒及び高等専門学校 3 年生までの学生を含む）
※個人・グループなど、どのような形態でも参加可能

●募集結果

特定の地域の歴史・文化に関するテーマで、中学生の部 3 件、高校生の部 3 件の応募があり、それら全てを口頭発表の対象とした。

●研究発表

①日　程　2 月14日（土）10：00～16：30
　中学生の部　10：00～12：00
　高校生の部　13：00～16：30
②会　場　文化の森イベントホール
③参加者　25人

●審査・表彰

①審査委員
　桑原　恵氏（徳島大学名誉教授）
　佐藤正志氏（摂南大学名誉教授）
　山口雄治氏（徳島大学准教授）
②審査結果
　審査の結果は次のとおりであった。

〈中学生の部〉

【優秀賞】

・「鮎喰川流域の銅鐸の特徴
　　―矢野銅鐸と名東銅鐸の違いを中心に―」
　徳島市国府中学校
　楠上陸翔、藤田裕次郎、高原隆希、髙木　将

【奨励賞】

・「徳島・松山大空襲について」
　徳島市国府中学校　沖原　柊
・「高地蔵に詰まる歴史」
　徳島市国府中学校　小岡凌央、松本萌愛、藤田愛加

〈高校生の部〉

【優秀賞】

・「峰八古墳群　新資料報告とその位置付け」
　徳島県立脇町高等学校　園田映音

【奨励賞】

・「鳥居龍蔵の台湾調査とフィールドノート研究
　　―ガラス乾板写真と顔認証技術への示唆―」
　徳島県立富岡西高等学校　溝口木乃香、片山果音
・「徳島市にあったドイツ兵捕虜収容所について」
　徳島県立城北高等学校　梅田夏姫、待田夏帆



徳島歴史文化フォーラム（高校生の部）の様子

7. 鳥居龍蔵記念　全国高校生歴史文化フォーラム

令和 2 年度、鳥居龍蔵記念博物館では、鳥居龍蔵生誕150周年を記念して、全国高校生歴史文化フォーラムを創設した。この事業の目的は、全国の高校生から歴史や文化に関する自主的な研究を募集し、優れた応募作品を表彰することで、その研究を行った者の活動を後押しし、未来を切り開く人材の育成を図ることである。7 年度で 6 度目の開催となった。

●主催

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

●募集内容及び条件

地域の歴史・文化について自主研究活動を行ってもらい、研究成果をまとめたレポートを募集した。テーマは、①特定の地域の歴史・文化に関すること、②鳥

居龍蔵に関することのいずれかとした。

また、研究及びレポート作成の条件として、①フィールドワーク（現地での見学や聞き取り、写真撮影等の調査）を行い、その結果をもとに考察すること、②テーマに関する博物館や資料館を利用すること、③調査内容や結果からの考察を、文章、図表、地図、写真等を用いて表現することとした。

●募集期間

7月16日（水）～11月14日（金）

●対象（応募資格）

高等学校及び特別支援学校（高等部）の生徒（中等教育学校の後期課程在籍の生徒及び高等専門学校3年生までの学生を含む）

●審査委員

桑原　恵氏（徳島大学名誉教授）
佐藤正志氏（摂南大学名誉教授）
山口雄治氏（徳島大学准教授）

●審査

① 1次審査（書類選考）を行い、優秀な研究を表彰した。

② 1次審査の結果、上位の5組については、フォーラム（研究発表会）に参加し、徳島歴史文化フォーラム（高校生の部）の上位者とともに口頭発表を行ってもらい、最優秀者を選考し、表彰した。

●1次審査（書類審査）の結果

【優秀賞】

・「日系アルゼンチン人から考える多文化共生のかたち
―湘南台の日系アルゼンチンコミュニティは、今―」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会
チーム在（後藤　葵、磯奈々子）

・「飛行場建設が変えたこと
―栃木県の戦争の記録をたどる―」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会
（手塚寛乃、東泉伊恭、安藤慶人、吹上心海、
八木澤陵介）

・「壱岐中世史解明の新視点
―誰が生池城を改修したか―」
長崎県立壱岐高等学校　東アジア歴史・中国語コース　歴史学専攻（宮野幸一）

・「熊澤家と戦争資料」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部（安原颯介、稲葉匠吾）

・「御霊神社と権現講」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部（矢野蒼依）

【入　賞】

・「衛門三郎と河野教通
―四国遍路（伊予）を作った戦国大名―」
愛媛県立松山北高等学校　郷土研究部（森貞裕太郎、松本知隼、對馬小花、谷口凱星、山住悠理、安部大晟）

・「家の前に自分の名前の文化財がある件について
―瀧澤家の殖産興業の現在地―」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会
チーム瀧（瀧澤帆影）

・「近世初期における塩飽人名制と年寄宮本家」
早稲田大学高等学院　新藤亘琉

【佳　作】

・「西条市長十河信二について　謎に包まれた市長時代」
愛媛県立西条高等学校　地域・歴史研究部
（黒川泰輝、長曽斗海、中濱和大、佐伯紫月、塩出養征、野本遼介）

・「受け継ぐ賢人の生気
―「有法子」の歴史と後代への願い―」
愛媛県立西条高等学校　地域・歴史研究部
（藤田莉子、梅本　晶、馬越結衣那、木原咲希）

・「西条産業の礎　名水「うちぬき」
―霊峰から流れる地下水の恵み―」
愛媛県立西条高等学校　地域・歴史研究部
（松本晃良、菅　悠介、石水聖也、越智雅友、星加瑛太）

・「秋田の礎―安東氏の軌跡に迫る―」
秋田県立秋田北高等学校　歴史研究部
（和田蒼生、木山　恵、佐々木真也子）

・「神奈川県西部の狼信仰」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部（吉田之仁）

・「越美山系の徳山、根尾を越えて」
鷲谷高等学校　社会研究サークル（吉村ここね）

●フォーラム（発表会）

①日　程　2月15日（日）13：00～16：00
②会　場　文化の森イベントホール
③参加者　36人
④題目・発表者（発表順）及び審査結果

・「御霊神社と権現講」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部（矢野蒼依）

・「飛行場建設が変えたこと
―栃木県の戦争の記録をたどる―」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会
（手塚寛乃、東泉伊恭、安藤慶人、吹上心海、
八木澤陵介）

・「壱岐中世史解明の新視点
―誰が生池城を改修したか―」
長崎県立壱岐高等学校　東アジア歴史・中国語コース　歴史学専攻（宮野幸一）

・「熊澤家と戦争資料」
神奈川県立足柄高等学校　歴史研究部



全国高校生歴史文化フォーラムの様子

（安原颯介、稲葉匠吾）
・「日系アルゼンチン人から考える多文化共生のかたち　―湘南台の日系アルゼンチンコミュニティは、今―」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会チーム在（後藤　葵、磯奈々子）
・「峰八古墳群　新資料報告とその位置付け」
徳島県立脇町高等学校　園田映音

⑤審査結果

【最優秀賞】
・「飛行場建設が変えたこと
―栃木県の戦争の記録をたどる―」
栃木県立矢板東高等学校　リベラルアーツ同好会
（手塚寛乃、東泉伊恭、安藤慶人、吹上心海、八木澤陵介）
・「峰八古墳群　新資料報告とその位置付け」
徳島県立脇町高等学校　園田映音

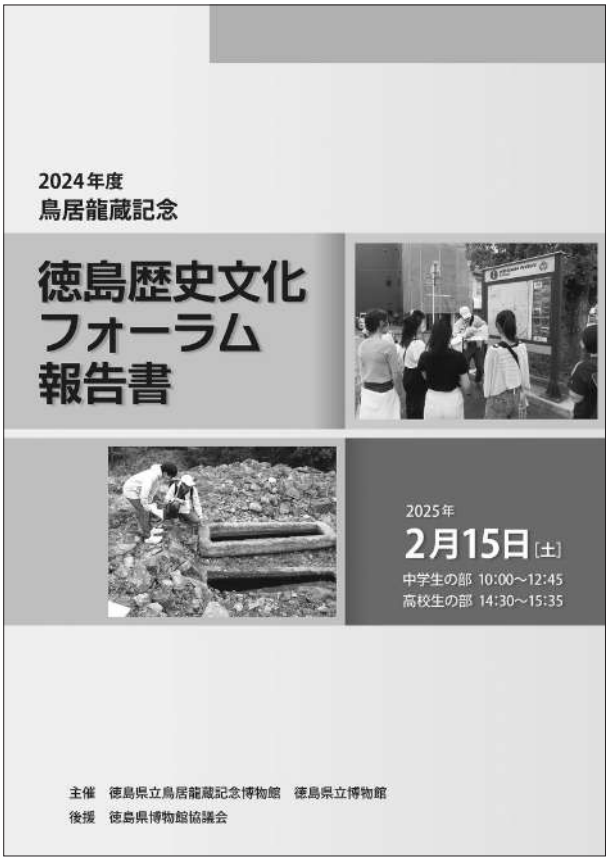
8. 普及教育関係出版物

●令和６年度　鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム報告書
2025年７月１日発行、A４判９ページ、1,000部

●鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER　No. 8.
2025年９月30日発行、A４判８ページ、3,000部
下田順一「鳥居龍蔵の調査に同行した画家・大野延太郎（雲外）のスケッチ」（今季の逸品）、p. 1.
坂東　泰「鳥居龍蔵が調査した中国貴州省の現在―企画展「中国西南部の旅人たち」に向けて―」、p. 2-3.
植地岳彦「1922年の鳥居龍蔵による徳島調査と弥生時代研究」、p. 4-5.
磯本宏紀「フィールドノート「那賀のあら妙」に描かれた七夕飾り」（資料整理の最前線）、p. 6.
小林篤正「鳥居きみ子と龍蔵のモンゴル行きについて―夫婦の共有日記をもとに―」（資料整理の最前線）、p. 7.

●鳥居龍蔵記念博物館 NEWS LETTER　No. 9.
2025年12月１日発行、A４判８ページ、3,000部
坂東　泰「中国西南部における支出記録」（今季の逸品）、p. 1.
長谷川賢二「鳥居龍蔵記念博物館の成り立ちについて―開館15周年によせて―」、p. 2-3.
坂東　泰「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館　開館15周年記念企画展　中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―」、p. 4-5.
大塩啓一郎「鳥居龍蔵が見た勝瑞城跡」（ゆかりの地今昔）、p. 6.
矢野大輔「台湾フィールドノートの挿絵」（資料整理の最前線）、p. 7.

●新編　みんなで学ぼう！　鳥居龍蔵
2026年３月６日発行、A４判18ページ、5,000部



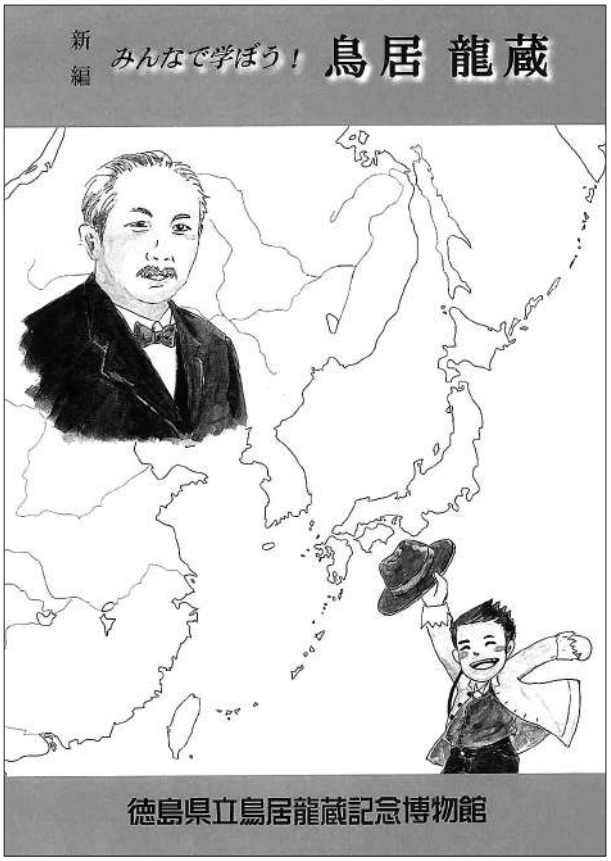
「鳥居龍蔵記念　徳島歴史文化フォーラム報告書」表紙



NEWS LETTER　No. 8 の表紙



NEWS LETTER　No. 9 の表紙



「新編　みんなで学ぼう！　鳥居龍蔵」表紙

Ⅴ　台湾との交流

鳥居龍蔵記念博物館は、令和２年度に宮岡真央子氏（福岡大学）の仲介により、国立台湾史前文化博物館との交流を始めた。４年度には、同館との間で、連携協定を締結した。７年度に行った主な活動は、以下のとおりである。

1. 台湾への訪問

⑴　第18回日台原住民族研究フォーラムへの参加

当館職員が８月26日～29日の日程で台湾を訪問し、日台原住民族研究フォーラムで研究報告を行ったほか、現地の調査を行った。参加者と日程は次のとおりである。

●参加者

松永友和、小林篤正

●日程

８月26日（火）

関西国際空港から台湾の桃園国際空港に移動した後、台北市で宿泊した。

８月27日（水）

第18回日台原住民研究フォーラムに参加した。フォーラムにおいては、小林が「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の概要及び鳥居龍蔵の台湾調査について」という題目で報告を行い、松永がコメントを行った。フォーラム終了後、台北市で宿泊した。

８月28日（木）

国立台湾博物館、順益台湾原住民博物館で施設調査等を行い、調査終了後、同市で宿泊した。

８月29日（金）

桃園国際空港から関西国際空港へ移動・帰国した。



日台原住民族研究フォーラムでの報告の様子



日台原住民族研究フォーラムでの集合写真

⑵　台湾北部・東部における共同調査の実施

当館職員が１月15日～20日の日程で台湾を訪問し、共同研究者とともに、鳥居龍蔵がかつて調査した宜蘭県や、日本統治時代（1895～1945）に多くの徳島県民が移住した花蓮県を調査した。参加者と日程は次のとおりである。

●参加者

磯本宏紀、長谷川賢二、大塩啓一郎、矢野大輔

●日程

１月15日（木）

関西国際空港から台湾の桃園国際空港へ移動した後、台北市に宿泊した。

１月16日（金）

国立台湾博物館（台北市）、十三行博物館（新北市）、原住民族文化会館、市内復興区公所、タイヤル織物工房（桃園市）で施設調査等を行い、桃園市で宿泊した。

１月17日（土）

鳥居龍蔵の第５回調査ルートに即した巡検を行い（桃園市）、宜蘭市で宿泊した。

１月18日（日）

蘭陽博物館、宜蘭県史館で展示調査を行い、大同郷寒渓村の巡検を行い（宜蘭市）、花蓮市で宿泊した。

１月19日（月）

日本統治期に徳島県からの移民が多かった吉野村跡地（花蓮県吉安郷）を巡検し、台北市で宿泊した。

１月20日（火）

桃園国際空港から関西国際空港へ移動・帰国した。



桃園市の山中での調査の様子



寒渓村での聞き取り調査の様子



タイヤル族の織物工房（桃園市）の様子



慶修院（花蓮県吉安郷）での聞き取り調査の様子

Ⅵ　管理運営

1. 組織・職員

⑴　組織図（令和８年４月１日現在）

館長［１］― 副館長［１］― 企画・学芸担当６［７］
（事務職員［２］
学芸員４［５］、
会計年度任用職員２）
［　］は兼務者数（外数）

⑵　職員名簿（令和８年４月１日現在）

館　　長　　戸川　美史（県立博物館長本務）
副 館 長　　中澤　晴子（県立博物館副館長本務）
〈企画・学芸担当〉
課長補佐　　近藤　　玲
上席学芸員　　磯本　宏紀（県立博物館上席学芸員本務）
専門学芸員　　松永　友和（県立博物館専門学芸員本務）
係　　長　　丸山　直生（県立博物館係長本務）
係　　長　　佐々木奏美（県立博物館係長本務）
主　　席　　下田　順一
主　　席　　長谷川賢二（県立博物館主席本務）
主　　任　　小林　篤正
主任学芸員　　坂東　　泰
学 芸 員　　大塩啓一郎（県立博物館学芸員本務）
学 芸 員　　矢野　大輔（県立博物館学芸員本務）
会計年度任用職員　　松家あき子
会計年度任用職員　　田原　晶子

⑶　人事異動

〈令和８年４月１日付〉

転出（兼務解除）：植地　岳彦・課長補佐、文化振興課文化資源活用室室長補佐（公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター派遣）へ
鉄谷　雅史・係長、牟岐町立牟岐中学校教諭へ
転入：近藤　　玲・課長補佐（文化資源活用課課長補佐）
転入（兼務）：佐々木奏美・係長（徳島市大松小学校教諭）

⑷　令和７年度会計年度任用職員

松家あき子（令和7．4．1～令和8．3．31）
田原　晶子（令和7．4．1～令和8．3．31）

2. 防災及び危機管理

⑴　防災及び危機管理体制

危機管理全般については、文化の森振興センターを中心に、文化の森全館の館長･副館長が協議しながら、対応する体制を整えている。また、防災について、文化の森４館棟で消防防災計画を立て、二十一世紀館、博物館、近代美術館、当館と文化の森の警備、設備、食堂等の業者で自衛消防隊を組織し、非常時に供えている。

⑵　防災訓練

二十一世紀館を中心に、10月17日（金）に防災訓練を行ったほか、県組織として随時行われる各種訓練にも参加して、防災意識を高めた。

3. 鳥居龍蔵記念博物館協議会

鳥居龍蔵記念博物館協議会は、運営に関し館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定にもとづき設置されている。委員は、県立博物館協議会委員による兼務である。

令和７年度は、県立博物館協議会を兼ねて１回開催した。

●令和７年度鳥居龍蔵記念博物館協議会

日時：令和７年10月10日（金）
14：00～16：00
会場：徳島県立博物館　講座室、同　常設展示室
議事
⑴　令和６年度事業の実施状況について
⑵　令和７年度予算及び事業概要について

令和７年度鳥居龍蔵記念博物館協議会委員

（令和８年３月31日現在）

区　分	氏　名	役　職　等
学校教育	生駒　佳也	徳島県立阿南光高等学校教諭
社会教育	森脇　崇文	徳島市立徳島城博物館主査・学芸員
	福井　春菜	公募委員（徳島県立佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター自然観察指導員）
	平川恵実子	鳴門教育大学大学院学校教育研究科准教授
学識経験	宮岡真央子	福岡大学人文学部教授
	徳原　　香	㈱あわわ　めぐる、事業部編集長
	瀬戸　恵深	㈱エフエムびざん放送部ディレクター
	◎町田　　哲	鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授
	○西　記代子	四国大学文学部講師
家庭教育	森脇佳代子	阿南市立羽ノ浦小学校 PTA

◎は会長、○は副会長

4. 博物館ネットワーク

⑴　四国地区博物館協議会

四国地区の博物館及び相当施設の連絡･協議組織で、現在74館（園）が加盟している。４県が持ち回りで２年ずつ会長・事務局をつとめることになっており、令和６～７年度は徳島県立博物館が会長館を務めており、７年度は、徳島市で総会や講演・研修会等が開催された。

⑵　徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興を図ることを目的とする。令和８年３月末現在、50館が加盟しており、徳島県立博物館が事務局を務めている。７年度は次のとおり、総会や研修会が開催された。

①徳島県博物館協議会総会
（６月25日、徳島県立文書館）
②徳島県博物館協議会研修会
（11月７日、日和佐うみがめ博物館カレッタ）

⑶　アイヌ文化でつながる博物館等ネットワーク（プンカヲ）

アイヌの歴史・文化等に関する資料情報の集約と利活用の促進等を通じて、アイヌ文化の振興と啓発に寄与することを目的とする。令和８年３月末現在、81館が加盟しており、国立アイヌ民族博物館が事務局を務めている。

5. 各種研修会への参加

各種の研修会等に職員を派遣し、博物館職員としての意識改革と資質の向上に努めている。

●徳島県博物館協議会総会
会　期：６月25日（水）
会　場：徳島県立文書館
参加者：小林　篤正

●第32回全国博物館長会議（文化庁・（公財）日本博物館協会）
会　期：７月２日（水）
会　場：文部科学省　東館３階講堂
参加者：戸川　美史

●令和７年度四国地区博物館協議会・日本博物館協会四国支部総会・研修会
会　期：９月17日（水）～18日（木）
会　場：徳島県立博物館
　　徳島市立徳島城博物館
参加者：植地　岳彦、長谷川賢二、下田　順一、
　　小林　篤正

●プンカヲ研修会
会　期：11月６日（木）～７日（金）
会　場：国立アイヌ民族博物館
参加者：下田　順一

●徳島県博物館協議会研修会
会　期：11月７日（金）
会　場：日和佐うみがめ博物館カレッタ
参加者：植地　岳彦

●四国ミュージアム研究会
会　期：３月15日（日）～16日（月）
会　場：宇多津町保健センターほか
参加者：磯本　宏紀、小林　篤正、矢野　大輔

6. 視察等来訪者

５月29日（木）
キム・ジヘ氏（東京大学大学院）
６月15日（日）

高橋　満氏（福島県立博物館）
7月16日（水）
キム・ジヘ氏（東京大学大学院）
11月27日（木）
上條信彦氏（弘前大学）
12月5日（金）～6日（土）
中生勝美氏（桜美林大学）、古松崇志氏（京都大学）
12月9日（火）
藏田愛子氏（大阪大学大学院）
12月10日（水）
平田　健氏（東京都教育庁）
1月31日（土）
中村　豊氏（立命館大学）
2月28日（土）
曽　士才氏
3月6日（金）
角南聡一郎氏（神奈川大学）
3月9日（月）
佐藤若菜氏（京都女子大学）

Ⅶ　観覧者統計

●令和７年度　常設展観覧者数

月	開館日数	有料観覧者							無料観覧者																		観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			有料観覧者計	学校教育										社会福祉施設等		個人						無料観覧者計	
									幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計										
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生		園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	施設	人数	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者	その他		
4月	26	15	2	0	50	4	2	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	5	7	14	58	76	200	273
5月	27	36	3	1	64	1	0	105	0	0	1	10	0	0	1	25	2	35	2	21	232	12	3	17	185	690	1,195	1,300
6月	25	18	5	0	88	6	0	117	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32	8	7	26	81	44	198	315
7月	27	22	7	2	56	1	2	90	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	13	2	20	115	128	309	399
8月	28	42	4	0	110	7	0	163	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	431	70	30	35	120	1,119	1,805	1,968
9月	25	27	7	0	44	4	0	82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	71	9	3	21	153	314	571	653
10月	27	26	3	0	41	5	0	75	0	0	4	540	0	0	0	0	4	540	0	0	79	4	6	29	72	209	939	1,014
11月	26	10	4	0	13	1	1	29	0	0	7	445	0	0	1	43	8	488	1	9	449	34	18	30	201	1,762	2,991	3,020
12月	24	24	6	0	37	6	0	73	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	5	7	9	52	72	190	263
1月	23	15	1	0	27	4	0	47	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	8	1	12	57	74	172	219
2月	24	30	4	0	50	3	0	87	2	26	1	14	0	0	0	0	3	40	0	0	193	25	6	9	145	799	1,217	1,304
3月	26	21	5	0	42	7	0	75	2	79	0	0	0	0	0	0	2	79	0	0	23	6	2	27	77	326	540	615
計	308	286	51	3	622	49	5	1,016	4	105	13	1,009	0	0	2	68	19	1,182	3	30	1,646	199	92	249	1,316	5,613	10,327	11,343

●常設展観覧者数累計

年度	開館日数	有料観覧者											無料観覧者															観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）				有料観覧者計	学校教育										社会福祉施設等		個人						無料観覧者計	
								大人			高校・大学生	小・中学生	幼稚・保育園		小学校		中学校		高校		計										
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障がい者	計			園数	人数	校	人数	校	人数	校	人数	校	人数	施設	人数	小学生	中学生	高校生	障がい者	高齢者	その他		
平22	121	909	33	6	66	0	0	790	49	839	0	0	1,853	9	540	15	851	2	12	1	15	27	1,418	—	—	1,259	60	37	—	—	3,432	6,206	8,059
平23	309	895	77	13	71	44	0	556	84	640	0	0	1,740	1	90	32	2,179	7	641	3	332	43	3,242	—	—	2,950	270	214	—	—	8,510	15,184	16,924
平24	308	621	106	4	65	0	0	120	22	142	0	0	938	2	182	33	2,450	2	9	2	341	39	2,982	—	—	3,089	225	135	129	829	7,256	14,645	15,583
平25	307	506	176	4	48	48	0	—	—	—	—	—	782	10	538	36	2,197	1	3	1	142	48	2,880	—	—	2,886	294	158	203	1,071	6,382	13,874	14,656
平26	307	436	150	9	110	18	0	—	—	—	—	—	723	8	381	32	1,755	5	97	3	335	48	2,568	—	—	2,770	200	76	320	1,575	6,080	13,589	14,312
平27	308	409	105	1	266	50	5	—	—	—	—	—	836	3	250	14	644	0	0	1	37	18	931	—	—	3,334	323	168	398	2,111	7,964	15,229	16,065
平28	308	389	83	1	202	13	2	—	—	—	—	—	690	4	180	7	120	2	81	1	25	14	406	—	—	4,310	325	198	415	1,897	9,698	17,249	17,939
平29	308	338	70	1	191	21	0	—	—	—	—	—	621	5	164	5	343	1	59	3	264	14	830	—	—	3,143	267	188	238	1,697	7,203	13,566	14,187
平30	308	276	71	2	147	43	1	—	—	—	—	—	540	6	119	11	373	1	113	1	12	19	617	—	—	2,445	206	184	229	1,662	7,035	12,378	12,918
令1	307	260	51	0	130	30	4	—	—	—	—	—	475	2	56	23	697	0	0	1	32	26	785	—	—	3,020	208	160	141	1,728	8,298	14,347	14,822
令2	292	395	70	22	237	11	144	—	—	—	—	—	879	2	106	13	869	1	36	0	0	17	1,011	—	—	1,073	75	49	175	1,054	2,459	5,896	6,775
令3	301	340	105	0	255	47	0	—	—	—	—	—	747	1	72	18	1,226	0	0	1	5	20	1,303	—	—	704	82	56	119	866	2,019	5,149	5,896
令4	307	245	111	1	330	31	0	—	—	—	—	—	718	2	106	9	648	2	66	1	5	14	825	—	—	1,198	88	64	195	903	3,700	6,973	7,691
令5	307	294	65	0	474	87	2	—	—	—	—	—	922	3	125	22	1,324	1	6	0	0	26	1,455	—	—	1,278	154	86	162	1,148	3,888	8,171	9,093
令6	304	312	61	2	462	44	1	—	—	—	—	—	882	0	0	17	1,021	1	129	1	41	19	1,191	5	78	1,483	144	97	226	1,313	4,138	8,592	9,474
令7	308	286	51	3	622	49	5	—	—	—	—	—	1,016	4	105	13	1,009	0	0	2	68	19	1,182	3	30	1,646	199	92	249	1,316	5,613	10,327	11,343
計	4,710	6,911	1,385	69	3,676	536	164	1,466	155	1,621	0	0	14,362	62	3,014	300	17,706	26	1,252	22	1,654	411	23,626	8	108	36,588	3,120	1,962	3,199	19,170	93,675	181,375	195,737

（※）平成24年９月から、高齢者（65歳以上）及び障がい者は無料。

●企画展観覧者数累計

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者									無料観覧者					観覧者総数
			個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）		有料観覧者計	社会福祉施設等		個人			無料観覧者計	
									一般									
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	高齢者	障がい者		施設	人数	高校・大学生	小・中学生	その他		
鳥居龍藏の見た台湾	平24. 1.28～3.11	38	549	21	1	14	1	0	559	34	1,179	—	—	20	1,037	363	1,420	2,599
鳥居龍藏の国内調査 —沖縄・南九州—	平26. 1.25～3. 2	32	270	22	0	11	0	0	139	—	442	—	—	9	595	707	1,311	1,753
よみがえる縄文世界 —鳥居龍藏の信州調査—	平27. 1.24～3. 1	32	377	40	7	78	0	0	285	—	787	—	—	39	805	1,196	2,040	2,827
鳥居龍藏 —世界に広がる知の遺産—	平28. 1.23～2.28	32	179	19	0	94	2	0	266	—	560	—	—	61	309	901	1,271	1,831
遙かなるマチュピチュ —鳥居龍藏、南アメリカを行く—	平29. 1.28～3. 5	32	536	29	2	194	4	1	592	—	1,358	—	—	30	494	1,023	1,547	2,905
鳥居龍藏、日本人の起源に迫る —本山彦一との交流—	平30. 2.10～3.18	32	144	10	0	49	0	0	167	—	370	—	—	25	283	1,068	1,376	1,746
鳥居龍藏と小金井良精 —日本人の起源を求めて—	平31. 1.26～3. 3	32	122	5	0	43	2	0	139	—	311	—	—	16	484	1,024	1,524	1,835
文化財調査の先覚者 鳥居龍藏、徳島を探る	令2. 2. 8～3.15	32	120	9	1	49	0	0	165	—	344	—	—	90	312	735	1,137	1,481
鳥居龍藏の学問と世界	令3. 2.13～3.21	32	60	2	2	43	0	0	111	—	218	—	—	5	43	280	328	546
鳥居龍藏と草原の遊牧王朝　遼	令4. 2. 5～3.13	32	106	20	0	36	2	0	141	—	305	—	—	8	184	286	478	783
鳥居龍藏をめぐる人々	令5. 2. 4～3.12	32	83	5	0	31	25	0	85	—	229	—	—	8	203	807	1,018	1,247
台湾世界を行く —鳥居龍藏の見た海・山・ひと・ムラー	令6. 1.27～3. 3	32	194	13	1	80	3	0	207	—	498	—	—	16	294	689	999	1,497
モンゴルのフィールドワーカー 鳥居きみ子	令6.11. 2～7. 1. 8	32	110	3	4	67	5	0	275	—	464	3	34	8	620	459	1,087	1,551
中国西南部の旅人 —鳥居龍藏と高原の少数民族—	令8. 1.31～8. 3. 8	32	132	8	0	52	1	0	222	—	415	1	9	19	212	952	1,192	1,607
合　計		454	2,982	206	18	841	45	1	3,353	34	7,480	4	43	354	5,875	10,490	16,728	24,208

（※）平成24年９月から、障がい者は無料。

22　観覧者統計

●特別陳列観覧者数累計

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
鳥居龍蔵の見た北東アジア	平23.10.29～12. 4	32	4,534
鳥居龍蔵とアイヌ	平25. 1.26～ 3. 3	32	5,465
自然とともに生きる人びと	令7. 1.18～ 3. 2	32	4,746
合　　計		96	14,745

●人権啓発展観覧者数累計

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
2010年度人権問題啓発展	平22.11.30～12. 5	6	670
2011年度人権問題啓発展	平23.12. 6～12.11	6	383
2012年度人権問題啓発展	平24.12. 4～12. 9	6	356
2013年度人権問題啓発展	平25.12. 4～12.10	6	341
2014年度人権問題啓発展	平26.12.10～12.16	6	315
2015年度人権問題啓発展	平27.12. 9～12.15	6	270
2016年度人権問題啓発展	平28.12. 9～12.15	6	244
2017年度人権問題啓発展	平29.12. 6～12.12	6	227
2018年度人権問題啓発展	平30.12. 5～12.11	6	382
2019年度人権問題啓発展	令1.12. 4～12.10	6	278
2020年度人権問題啓発展	令2.12. 9～12.15	6	447
2021年度人権問題啓発展	令3.12. 8～12.14	6	419
2022年度人権問題啓発展	令4.12. 7～12.13	6	262
2023年度人権問題啓発展	令5.12. 6～12.12	6	348
2024年度人権問題啓発展	令6.12. 4～12.10	6	383
合　　計		90	5,325

●利用者総数年度別一覧

年度	常設展 有料観覧者	常設展 無料観覧者	常設展観覧者合計	企画展観覧者	特別陳列観覧者	移動展等	普及行事参加者	その他	利用者総数
平22年度	1,853	6,206	8,059	—	—	—	236	670	8,965
平23年度	1,740	15,184	16,924	2,599	4,534	—	412	4,421	28,890
平24年度	938	14,645	15,583	—	5,465	—	1,968	356	23,372
平25年度	782	13,874	14,656	1,753	—	—	3,387	370	20,166
平26年度	722	13,589	14,311	2,827	—	—	4,167	336	21,641
平27年度	836	15,229	16,065	1,831	—	—	2,898	527	21,321
平28年度	690	17,249	17,939	2,905	—	8,439	4,521	844	34,648
平29年度	621	13,566	14,187	1,746	—	2,592	3,282	430	22,237
平30年度	540	12,378	12,918	1,835	—	—	3,174	649	18,576
令元年度	475	14,347	14,822	1,481	—	—	3,047	479	19,829
令2年度	879	5,896	6,775	546	—	8,230	380	1,823	17,754
令3年度	747	5,149	5,896	783	—	12,715	672	419	20,485
令4年度	718	6,973	7,691	1,247	—	21,662	3,716	682	34,998
令5年度	922	8,171	9,093	1,497	—	7,213	3,543	669	22,015
令6年度	882	8,592	9,474	1,551	4,746	13,231	3,528	529	33,059
令7年度	1,016	10,327	11,343	1,607	—	32,637	4,805	221	50,613
累計	14,361	181,375	195,736	24,208	14,745	106,719	43,736	13,425	398,569

（※）特別陳列は自主事業のみの観覧者数。その他は、人権啓発展と共催事業を合わせた観覧者数

●啓発展をのぞく共催事業観覧者・参加者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵が見た「祭り」「踊り」	平23. 7.20～23. 8.28	36	4,038
合　　計		36	4,038

（※）観覧者数は開催期間中の常設展来館者数合計。

●館内各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
鳥居龍蔵の南アメリカ調査と乗り物	平29. 2. 4～29. 4.23	68	11,031
鳥居龍蔵生誕150周年「鳥居龍蔵とは!?」	令2. 7.21～2.11.29	114	8,230
鳥居龍蔵が撮影した台湾 ―人々と風景―	令3. 9.14～4. 2. 6	120	12,715
鳥居龍蔵の見た遼代の仏塔	令4. 8. 2～4.11.13	90	10,041
鳥居龍蔵の見た120年前の木頭 ―文化の森展	令4.11.15～5. 1. 9	43	3,042
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（文化の森展）	令5. 1.11～5. 3.16	56	5,243
合　　計		491	50,302

●館外各種展示観覧者数

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者数
移動展　鳥居龍蔵が見た120年前の木頭	令4. 8. 6～4. 9. 9	37	262
鳥居龍蔵と新町小学校	令4.10. 4～4.10.13	10	109
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（阿南市立阿波公方・民俗資料館展）	令4.10.18～4.10.30	12	51
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（美馬市立図書館展）	令4.11.30～4.12.19	16	1,287
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（四国大学展）	令4.12. 3～4.12.25	20	947
学知のユリカゴ 台湾 ―青年 鳥居龍蔵の挑戦―（徳島大学展）	令5. 1.11～5. 2. 2	17	680
合　　計		112	3,336

Ⅷ　施設の概要

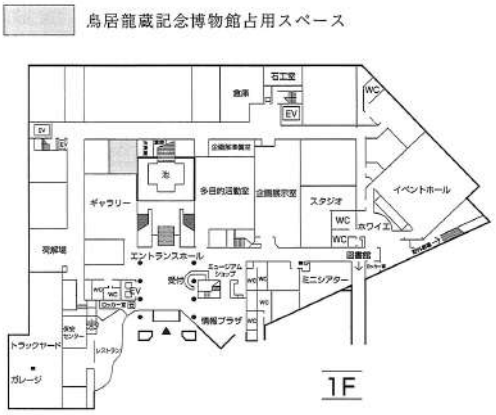
1. 沿革

昭和40年３月　鳴門市撫養町の妙見山に旧館（徳島県立鳥居記念博物館）開館
平成18年７月　鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会設置
19年12月　鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会が「鳥居龍蔵博士の顕彰等に関する検討委員会報告書」を知事に提出
20年３月　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館展示検討委員会設置
７月　徳島県立鳥居龍蔵記念博物館展示検討委員会が「徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（仮称）展示計画書」をとりまとめ
21年３月　展示実施設計完了
７月　展示工事着手
22年３月　旧館閉館
９月　展示工事竣工
11月　開館
28年１月～２月　開館５周年記念事業として、企画展「鳥居龍蔵―世界に広がる知の遺産―」及び国際講演会「鳥居龍蔵の再発見―国内外の視点から―」を開催
令和２年４月　教育委員会から知事部局に移管
３年２月～３月　鳥居龍蔵生誕150周年記念・開館10周年事業として、「鳥居龍蔵生誕150周年記念全国高校生歴史文化フォーラム 2020 in 徳島」及び国際シンポジウム「鳥居龍蔵と現代社会―その学問と資料の意義を問う―」などを開催
４年９月　国立台湾史前文化博物館と連携協定を締結
６年４月　博物館観覧料減免要綱の一部改正により、保育所・認定こども園の保育に係る常設展・企画展観覧料や社会福祉施設等（保育所・認定こども園を除く）による利用時の常設展・企画展観覧料の免除など、減免対象を拡大
６年５月　博物館法改正に伴い県教育委員会の博物館登録原簿に再登録
７年９月　文化の森開園35周年記念事業として、「文化の森よるあそび」を実施
８年１月～３月　開館15周年記念企画展「中国西南部の旅人―鳥居龍蔵と高原の少数民族―」を開催

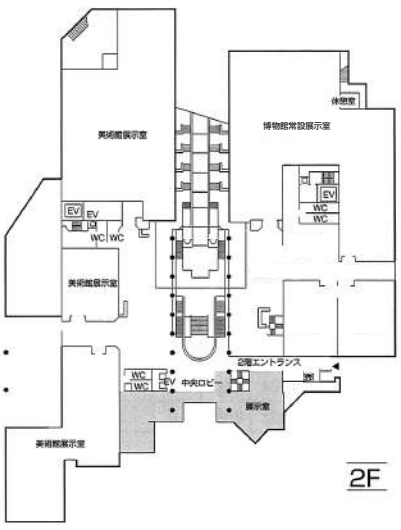
2. 施設の概要

●**所 在 地**　徳島市八万町向寺山
●**敷地面積**　40.6ha（文化の森総合公園全体）
●**延床面積**　485㎡（展示室、収蔵庫、器材庫等鳥居龍蔵記念博物館占用スペース）
●**構造規模**　鉄筋コンクリート造　地上４階・塔屋１階・地下１階
●**改築工事**　岡島建築事務所(設計)･小野建設(施工)
●**展示工事**　(株) 丹青社（設計・施工）

１階平面図



２階平面図



（※）鳥居龍蔵記念博物館の占用スペースのない階は平面図を省略した。

Ⅸ　例　規

●徳島県文化の森総合公園文化施設条例［抜粋］

制　　定　平成２年３月26日　　徳島県条例第11号
最近改正　令和５年３月14日　　徳島県条例第17号

（設置）

第１条　個性豊かな県民文化を振興し、魅力のある地域づくりに寄与するため、県民の文化活動の拠点として、徳島県文化の森総合公園文化施設（以下「文化施設」という。）を徳島市八万町に設置する。

（名称及び業務）

第２条　文化施設の名称及び業務は、次のとおりとする。

名　　称	業　　務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館 （以下「鳥居記念館」という。）	１　鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 ２　鳥居記念館に関する調査研究を行うこと。 ３　鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 ４　その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

（利用の許可）

第３条　（省略）

（観覧料等）

第４条　博物館が展示する博物館資料、美術館が展示する美術館資料又は鳥居記念館が展示する鳥居記念館資料を観覧する者に対しては、別表第１に掲げる額の観覧料を徴収する。

２　（省略）

３　知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料又は使用料の全額又は一部を免除することができる。

４　観覧料及び使用料の徴収の時期及び方法その他観覧料及び使用料に関し必要な事項は、規則で定める。

（損害の賠償）

第５条　文化施設を利用する者は、文化施設の施設、資料等をき損し又は亡失したときは、これによって生じた損害を賠償しなければならない。ただし、知事は、当該き損又は亡失がやむを得ない理由によるものであると認めるときは、その賠償責任の全部又は一部を免除することができる。

（職員）

第６条　図書館法（昭和25年法律第118号）及び博物館法（昭和26年法律第285号）に定めるもののほか、文化施設に、館長その他必要な職員を置く。

（協議会）

第７条　知事の附属機関として、次の表の上欄に掲げる協議会を置き、これらの協議会の所掌事務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

協　議　会　の　名　称	所　掌　事　務
徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べること。

２　協議会は、委員10人以内で組織する。

３　徳島県立図書館協議会、徳島県立博物館協議会、徳島県立近代美術館協議会及び徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから任命するものとする。

4　（省略）
5　委員の任期は、２年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
6　委員は、再任されることができる。
7　前各項に定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。
（規則への委任）
第８条　この条例に定めるもののほか、文化施設の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

別表第１（第４条関係）

区分		単位	金額			
			常設展		企画展	
			個人	団体（20人以上をいう。以下同じ）	個人	団体
美術館及び鳥居記念館資料	小・中学生	１人１回	50円	40円	知事がその都度定める額	
	高校・大学生等	１人１回	100円	80円		
	一般	１人１回	200円	160円		

（備考）
「小・中学生」とは小学校の児童及び中学校の生徒並びにこれらに準ずる者を、「高校・大学生」とは高等学校の生徒並びに高等専門学校及び大学の学生並びにこれらに準ずる者を、「一般」とは小・中学生及び高校・大学生等以外の者（学齢に達しない者を除く。）をいう。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館管理規則

制　　定　令和２年３月24日　徳島県規則第50号
（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（以下「鳥居記念館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。
（休館日）
第２条　鳥居記念館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
⑴　月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日）
⑵　１月１日から同月４日まで及び12月29日から同月31日まで
2　知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、臨時に休館し、又は同項に規定する休館日に開館することができる。
（供用時間）
第３条　鳥居記念館の供用時間は、午前９時30分から午後５時までとする。
2　知事は、特に必要があると認めるときは、前項の規定にかかわらず、同項に規定する供用時間を変更することができる。
（遵守事項）
第４条　鳥居記念館を利用する者は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）及びこの規則並びに知事が別に定める利用者心得その他の規律を守らなければならない。
（入館の禁止等）
第５条　知事は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を禁止し、又は退館を命ずることができる。
⑴　泥酔者及び伝染性の疾病にかかっていると認められる者
⑵　前条の規定に違反し、又はそのおそれがある者
（資料の特別利用）
第６条　学術その他の目的のために鳥居記念館資料の撮影、模写等をしようとする者は、あらかじめ、知事の承認を受けなければならない。

（補則）
第７条　この規則に定めるもののほか、鳥居記念館の管理に関し必要な事項は、知事が別に定める。

●徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会規則

制　　定　令和２年３月24日　徳島県規則第44号

（趣旨）
第１条　この規則は、徳島県文化の森総合公園文化施設条例（平成２年徳島県条例第11号）第７条第７項の規定に基づき、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（会長及び副会長）
第２条　協議会に、会長及び副会長各１人を置く。
２　会長及び副会長は、委員の互選によって定める。
３　会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会議）
第３条　協議会の会議は、会長が招集する。
２　協議会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ、開くことができない。
３　協議会の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（雑則）
第４条　この規則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

●徳島県行政組織規則［抜粋］

制　　定　昭和42年３月28日　徳島県規則第15号
最近改正　令和８年３月31日　徳島県規則第30号

第１章　総　　則（省略）
第２章　事務部局
第２節　出先機関
第１款　設置等
（その他の機関の設置）
第21条　前条第１項に規定する機関のほか、次の表の上欄に掲げる部に、それぞれ同表の下欄に掲げる機関を設置する。

部及び局	機　　関			
	名　　称	設置の目的又は根拠法令	位　　置	所管区域又は担当区域
観光スポーツ文化部	徳島県文化の森振興センター	徳島県文化の森総合公園文化施設の運営を総合的に推進するため	徳島市八万町	

２　次の表の左欄に掲げる機関については、それぞれ同表の右欄に掲げる法令又は条例の規定により設置された機関を当該上欄に掲げる機関を構成する機関とする。

機　　関	法令又は条例の規定により設置された機関	
	名　　称	位　　置
徳島県文化の森振興センター	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（以下「鳥居記念館」という。）	徳島市八万町

第２款　内部組織及び分掌事務
（分掌事務）
第23条　出先機関の分掌事務は、別表第６に掲げるとおりとする。
第３款　職及び職務

（所長）

第25条　出先機関に所長（（省略）図書館、博物館、美術館、文書館、二十一世紀館、鳥居記念館（省略）にあつてはそれぞれの機関の名称を冠した長（省略）。以下この款において「所長」という。）を置く。

2　所長は、上司の命を受け、当該機関の事務をつかさどり、所属職員を指揮監督する。

（副所長等）

第26条　前条に規定する職のほか、次の表の左欄に掲げる職をそれぞれ同表の右欄に掲げる機関に置く。

職	機　　関
副　館　長	⑴図書館　⑵博物館　⑶美術館　⑷文書館　⑸二十一世紀館　⑹鳥居記念館

2　副所長、副局長、副校長、副館長、副本部長及び副課長の職務は、上司の命を受け、所長を補佐するものとする。

（主幹等）

第28条　前３条に規定する職のほか、必要と認めるときは、次の表の左欄に掲げる職を出先機関又はセンター内課等に置き、その職務は、それぞれ同表の右欄に掲げるとおりとする。

職	職　　務
課　　長	上司の命を受け、センター等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務又は試験研究のうち高度の知識又は経験を必要とするものを処理する。
課長補佐	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の重要施策又は重要事業の推進に関する事務に従事する。
上席学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の重要施策又は重要事業の推進に関する資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主　　査	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
専門学芸員	上司の命を受け、高度の知識又は経験を必要とする資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
係　　長	上司の命を受け、センター等又はセンター内課等の事務に関し命ぜられた事項を処理する。
学芸係長	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
主　　席	上司の命を受け、特に命ぜられた相当の知識又は経験を必要とする事務に従事する。
主　　任	上司の命を受け、相当の知識又は経験を必要とする事務又は試験研究の業務に従事する。

（主任主事等）

第29条　第25条から前条までに規定する職のほか、出先機関又はセンター内課等に、別表第３の上欄に掲げる職のうち必要な職を置き、その職務は、それぞれ同表の下欄に掲げるとおりとする。

第３章　附属機関

第33条　附属機関の名称及び庶務を担当する組織は、別表第５に掲げるとおりとする。

別表第３　主任主事等の職及び職務

職	職　　務
主任主事	上司の命を受け、相当の経験を必要とする事務に従事する。
主　　事	上司の命を受け、事務に従事する。
主任学芸員	上司の命を受け、相当の経験を必要とする博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。
学芸員	上司の命を受け、博物館、美術館又は鳥居記念館の資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これらと関連する業務に従事する。

別表第４　出先機関の分掌事務

センター等	分　掌　事　務
鳥居記念館	⑴鳥居龍蔵に関する資料（以下「鳥居記念館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。 ⑵鳥居記念館資料に関する調査研究を行うこと。 ⑶鳥居記念館資料に関する講座等の教育普及事業を行うこと。 ⑷その他鳥居記念館の設置の目的を達成するために必要な事業を実施すること。

別表第５　附属機関の名称及び庶務を担当する組織

	名称	庶務を担当する組織
74	徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会	鳥居記念館

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館年報　第16号（令和７年度）

令和８（2026）年８月31日　発行
編集・発行：徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
〒770−8070　徳島市八万町向寺山
（文化の森総合公園内）
Tel. 088−668−2544　Fax. 088−668−7197
Ｅメール torii-museum@bunmori.tokushima.jp
ホームページ https://torii-museum.bunmori.tokushima.jp
印　　刷：徳島県教育印刷株式会社